



条案 市原正 庄例改

国民健康保険税の 引き上げで1億円の負担増!



1月19日の国民健康保険運営協議会で、23年度からの国保税の引き上げが、賛成多数で確認されました。国保税率改正の条例案が、3月議会に提出されます。

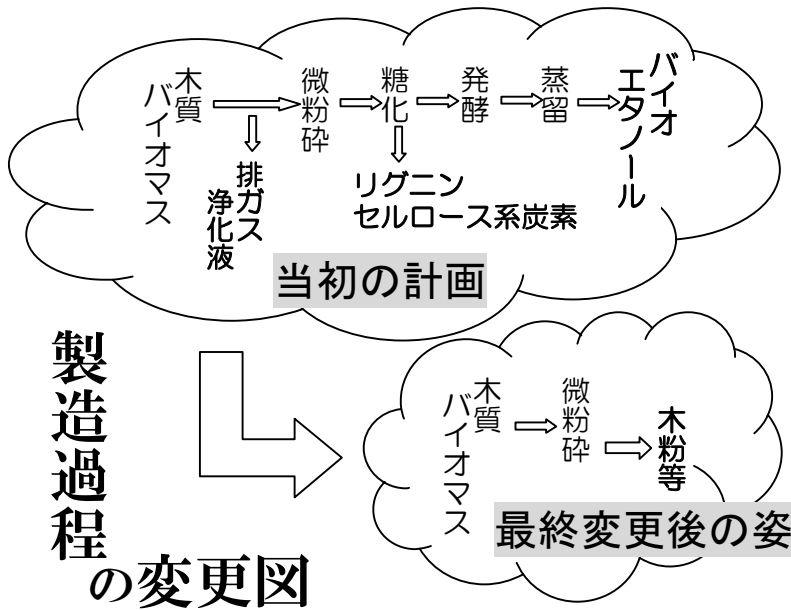
この条例が可決されると、被保険者1万438人(6千350世帯)で、1億円余りの負担増になります。被保険者一人あたりの保険税は、6万9千56円から7万8千963円へと9千638円の引き上げ。一世帯当たりでは、1万1千3千512円から1万2千9千355円となり、1万5千843円の引き上げです。今でも収入に比較して重すぎる負担が、さらに14%も増えることは到底納得できません。

19日の保険税は、全国平均で3万9千020円から9万625円と急増しています。民主党のマニフェストにもあった国庫負担の引き上げを国に強く要求し実現するとともに、市独自の努力も求め、これだけの負担増は何としても止

国庫負担率は1984年の49.8%から2008年には24.1%と半分減らされ、同時期に被保険者一人あ

グリーンケミカル株式会社の 事業計画の変更

結局ほとんどが木粉に



グリーンケミカル株式会社の事業計画の変更 (『きのこや通信 111号』の補足)

	H20 市予算要求 (H19, 12月)	20年事業計画提出 (H20, 2月)	20年10月6日 交付申請	22年1月13日 計画変更申請	22年11月10日 計画変更申請
エタノール	1,000kl/年	500kl/年	0 kl	0 kl	0 kl
排ガス浄化溶液	1,500kl/年	750kl/年	720kl/年	720kl/年	※② 1,980ℓ/年
リグニン	5,000t /年	2,500t/年	1,080t/年	※① 1,320t/年	※③ 3,000t/年
セルロース系炭素	0 t	0 t	420t/年	210t/年	0 t
原料(間伐材など)	30000t/年	15000t/年	7200t/年	7200t/年	7200t/年

※① 木粉720t とリグニン類 600tの合計。糖化処理量の半減とセルロース系炭素の製造方法の工程見直し、木粉の追加など。
 ※② 1,980ℓは桧の樹液抽出油。ここから出来る製品は排ガス浄化液(BCL)200ℓ・抗菌液 9000ℓ・ペット用 4000ℓ・アロマ 550ℓとのこと。
 ※③ 3000 t /年はすべて木粉。これで生産量のほとんどは木粉ということに。糖化・発酵設備の削減。

木質バイオマス関連事業の推進に関する

庄原市と(株)ジュオンの協定書の概要

H19.3.8

第一条(目的) 信頼関係をもとに、木質バイオマスを利用した新エネルギー・新産業の創出を相互に推進する。

第二条(エタノール製造実証実験事業) 実験に必要な工業団地内の土地・建物を市が無償貸与することを明記。

第三条(木質チップボイラーによる熱供給事業) リフレクシユハウス東城に、木質チップボイラーによる熱供給をすること

を規定。
第四条(排ガス浄化液等バイオマス関連製造事業) (株)ジュオンが、平成20年を用途に、庄原

工業団地内に排ガス浄化液(BCL)や実証実験の結果を生かしたバイオマスエネルギー関連製造工場の立地・操業を推進することを明記。

《コメント》 19年3月に協定を結び、翌年に製造工場を建設することを最初から約束。これでは、実証実験の成果を生かすことができるはずがない。ジュオンが共同研究した産業技術総合研究所中国センターも平成20年から3年間、実証プラントで検討を重ね、23年度から実用化プラントの検討を開始するとしているのに。

が、平成20年を用途に、庄原

タブーなく真実を伝える 「しんぶん赤旗」 をお読みください

いつも『きのこや通信』をお読みいただきありがとうございます。「しんぶん赤旗」の日曜版読者のAさんが、二人の新しい購読者を紹介してくださいました。心から感謝しています。まだ赤旗新聞を購読していない方は、この機会にぜひご購読ください。

日刊紙 2,900円(一か月)
日曜版 800円(一か月)

《里山に生きる自然と文化を訪ねて》

粟田南集会所にある「歴史探訪図」

東城温泉を一〇〇メートルほど上がったところに粟田南集会所があります。その集会所の間に畳半畳ほどの大きな「歴史探訪図」なるものが掛かっています。手書きの地図に、栗田・竹森の由緒名跡が事細かに紹介してあり、その数は約六〇カ所に及びます。これは栗田・追原の今岡荘さんの作品です。(平成二年六月作成)

この「歴史探訪図」に記載されているものを少し紹介します。まず、栗田の沿革が、「比婆郡誌」から引用されています。「栗田村は、もと東庄に属せし栗田、大飯庄に属せし竹森、及び姉蘇庄に属せし森脇の三村に分れ、竹森、森脇は廣島藩主の直領、栗田は國老上田家の所領たりしが廢藩置県後大小区別を経て明治十二年森脇村はこれを栗田村に合せ、明治二十二年町村制実施に際し栗田、竹森を合併、田森村を経て今日に至れり」(比婆郡誌 大正元年十一月十日発行 比婆

郡役所)。

また、「栗田」という名前はどこからきているかについて、「栗田の名は、藤原道長の兄、正二位関白左大臣藤原道兼の号を栗田殿と称し、栗田之関白道兼と名乗り京都のこの一郷を栗田口と現在も云う、東山道、東海道に出入りする要所を領有していた、その道兼の領有する(莊園)この地は鉄山豊富にして吾が号名を名付けて栗田としたか」とあります。

「鉄山豊富」と言われるほど「たたら産業」が栄えていたことが各所に伺えます。「鉦(たたら)跡」が「保光」「長者山」「鉄(かな)井谷」「野田のはな」の四カ所。「鉄穴(かな)跡」が「隠迫」「大川落」の二カ所。それに「八ツ目鱧型炭窯跡」といつて、「奈良時代から平安時代に操業した製鉄用炭窯跡と推定される。東北地方から九州地方まで広く分布し、岡山県北部に多い。広島県では、三良坂に二つあるのみで、これが県下にお

ける三番目の貴重なもの「もあります。また、「たたら原」という地名もあります。そして「猫子地原大池」は、近くの鉄井谷たたら炉を作るための良質の赤土粘土が掘り出された後、用水として利用されたものです。

神社が八社、お寺お堂など併せて一五カ所、城跡が「朝倉」「話丸」「貴船」の三方所。明治九年戸長笹尾平兵衛により創立し明治十五年栗田村公立栗田西小学校となる「末木学校」が「粟田南集会所」の近くにあったということも記されています。

それぞれの集落にそれぞれの歴史と伝統があります。そこをしっかりと頭に入れて、地域の個性ともいうべき地域の魅力を引き出すことが大事なのではないでしょうか。

(な)



「歴史探訪図」